

優しい人、末吉幸代さんを悼む

1965年卒 梶田 英之



末吉 幸代 (旧姓藤井)
2018年12月17日病没
遺族 夫 武二様

やさしい人であった。故人を知る人は誰でもそう思うであろう。

そのやさしい人が危険きわまりない航空スポーツに挑んだのである。やさしさの中に秘めたる闘志が有ったからである。

末吉幸代さん(旧姓藤井)は昭和36年4月に同志社大学文学部に入学された。

入学と同時に体育会航空部入部された。入部当時のグライダーはプライマリーであった。田辺の格納庫に吊るされている機体がそれである。通称パチンコと云った。動力はゴム索である。部員が二列に分かれてV字方向に奴隷のようになって引っ張るのである。今や伝説と化した曳航である。奴隷には男女の別は無かった。玉水の木津川の河川敷では灼熱の太陽の下で砂にまみれてゴム索を引いた。霧ヶ峰ではそよ風が吹くとは言え、奴隷作業は同じであった。末吉幸代さんは決して弱音を

吐かず、男子部員といっしょに黙々とゴム索を引いたのである。その後初級課程(奴隷課程?)を修了し上級課程に進んだ後は八尾飛行場の廢格納庫のボロ宿舎に部員と起居を共にし、九州合宿(旧小倉飛行場)に参加される等、熱心にグライダーに取り組む姿に変わりは無く続いたのであった。

卒部後は同期でキャプテンを務められた末吉武二さんにご結婚、部内初のカップルとして多くの方々から祝福を受け、その後二人のお子さんに恵まれ幸せな家庭を築き上げた。しかし伴侶の仕事は家庭を守る事だけでは無かった。御主人がサラリーマン生活に別れ告げ、事業を始めてからは常に傍に在ってご主人を助け、見事事業を開花させたのである。

晩年になってご夫妻は余暇に旅行に出かける機会多かった。その際は私もお供させていただくことが何度かあった。長良川の鵜飼いの折りには木曾川滑空場まで足を伸ばし、窪田監督のもとで合宿中の現役部員を慰労した事も有ったし、北海道では石狩平野の巨大な防風防雪林の中を車で走りまわった等、楽しい思い出を沢山残してくれた。そして更に思い出を作らんとしている時に突然不幸が襲ったのである。平成25年12月、くも膜下出血を発症されたのである。以来5年間に亘ってご主人、ご家族の手厚い介護のもとで病魔と闘ってこられたのであるが平成30年12月、やさしい人末吉幸代さんは神に召されたのである。ここに故人のご冥福を祈ると共に、ご主人ご家族に皆さんに哀悼の意を表する次第である。

追伸：故末吉幸代さんは現在御殿場市の富士霊園に静かに眠っておられます。富士霊園は我々同期にして平成14年11月に他界された故安元英生さんと奇しくも同じ聖苑です